

核開発に反対する会

2010.10 ニュース No. 35

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-2-13-502号室 Tel. 03-3261-1128(午前中)

郵便振替 口座名:核開発に反対する会 口座番号:00160-3-615391

A. ニュース購読費(月刊ニュース12号分) 4000円

B. 維持会費(月刊ニュース12号分+資料等)10000円

HP <http://kakukaihatsu-hantai.jp> 連絡先Eメール mail@kakukaihatsu-hantai.jp

「お釈迦」になったかニセもんじゅ

核開発に反対する会 槌田敦

「ニセもんじゅ」(文殊菩薩を詐称する原子炉、敦賀市)で、8月26日、燃料交換に使う「炉内中継装置」(3.3トン)を原子炉の中で2メートルも落としてしまった。これはかなりの衝撃で、原子炉内部の構造を破損したのではないかと心配されている。

落とした原因は、ステンレス製のネジのゆるみで、これにより2本のつめが固定され、この装置を吊るす構造になっていたという。このネジの長さはわずか1センチという小さなもので、しかも落下を防ぐ手段がこれ以外になかったというのは、とても信じられないお粗末さである。

ところで、このニセもんじゅの原子炉は、加熱して溶かした液体ナトリウムで満たされている。この液体ナトリウムは光を通さないため、カメラで見ることはできないから、原子炉の中がどのように壊れたかを知る方法がない。破損状況が分からなければ、もんじゅは使用できないことになる。

液体ナトリウムを抜き取れば見えるのだが、その作業の結果、不純物が炉内に多量発生するなどして、やはりもんじゅは使用できないこ

とになる。もんじゅは15年前のナトリウム火災事故の後、この炉心のナトリウムを抜き取らず、これが固まらないように加熱し続けた。支払った電力代金は年間200億円、15年間で3000億円の国費を単なる熱にして無駄遣いしていたのである。

このように、ナトリウムを抜き取る以外にこの衝撃による破損状態を知る方法がないので、もんじゅは「お釈迦になった」と見られる。

「お釈迦」とは、阿弥陀の像を鑄るのに誤って釈迦の像を鑄たことをいう。

もはや、ニセもんじゅは運転できないので、巨大大事故を起こすことなく臨終を迎える可能性がきわめて高く、しかも日本の核武装計画の挫折となったことを喜びたい。

目次

お釈迦になったニセもんじゅ	1
もんじゅ炉内中継装置落下事故	2
事故続出から見える日本の技術	7
偽善の極致 クライメイト事件	8
気象学会裁判、東大裁判	9
事務局日誌	11